

「緑の保全・緑化推進」及び「花のまちづくりセンター」に関する事業の状況（H24.1末現在）

（資料2）

	事業名	事業概要	開始年次	実績	事業費	問題点	備考	
緑の保全・緑化の推進に関する事業	保護樹林・保護樹木制度	本市の良好な自然環境を保全し、育成するため、特に保護する必要があると認められるものを、保護樹木・保護樹林として指定	平成4年度～	平成4年度 保護樹林が5件 計643㎡	5件とも、管理助成金の交付はしていない	市民サロンのメンバーで調査いただいたものを基に、基準等を改正していく（景観重要樹木との整理が必要）	「みどりの基金」活用	
	樹林地バンク制度	「市街化区域内の樹林地の所有者」と「樹林保全活動グループ」が「樹林地バンク」に登録し、市が仲介して双方を繋ぐことにより、まちなかに残る貴重な緑を保全し、身近な自然を将来にわたって育むことを目的としている制度	平成23年度～	平成23年度 1件、約2,200㎡ 登録件数： 「樹林地の所有者」が0件、「樹林保全活動グループ」が2件	自然生態アドバイザーの派遣はしていない	樹林地所有者の登録が1件、樹林保全活動グループの登録が2件と少ない	「みどりの基金」活用	
	市民の森事業	市が一定期間、樹林地の所有者から土地を無償で借上げて整備し、まちなかに残る貴重な緑を保全するとともに、広く市民に憩いの場として開放することにより、緑を大切にすることを目的としている制度	平成23年度～	平成23年度 樹林地の所有者と協議中		今年度、樹林地の所有者に対して協議を進めたが、交渉不成立（2件）	「みどりの基金」活用	
	生垣助成制度	生垣は、まちなかの美しい緑あふれる住環境を形成するほか、気温を調整する、騒音を和らげる、災害に強くなるなどの効果がある。市街化区域内で、「新たに設置される生垣」、「作り替えが必要な生垣」について、設置費用の一部を助成	平成19年度～	平成19年度 9件、88.8m 平成20年度 11件、112.4m 平成21年度 17件、174.6m 平成22年度 11件、114.8m 平成23年度 7件、96.9m	450,000円 520,000円 758,000円 523,000円 407,000円	ブロック塀等から生垣に変更されるケースがない 新築の際の助成の申込が多い	「みどりの基金」活用	
	ボランティア養成講座	花や緑のまちづくりに関心があり、地域で活動してみたい、あるいは、活動をしようとしている方々を対象に、まちづくり活動の中核的役割を担う人材を養成する講座	平成21年度～	平成21年度 平成22年度 平成23年度	花20人・緑20人（応募は花28人・緑21人） 花15人・緑15人（応募は花40人・緑17人） 花15人・緑15人（応募は花28人・緑25人）	860,191円 962,562円 781,817円	講座修了後、修了生の活動意欲があるにも関わらず活動している人が少ない 連続して抽選漏れしている方の救済措置は現在はない	「みどりの基金」活用
	みどりの基金	生駒は緑豊かな自然に恵まれた住宅都市である。その自然を適切に保全しながら緑化などにより新たな緑を創造し、花や緑であふれ自然とふれあえる魅力的なまちづくりを推進することが重要である。そのため、市の出資金1億円をもとに、「生駒市みどりの基金」を創設	平成19年度～	平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度	個人4件、団体11件 個人5件、団体7件 個人3件、団体6件 個人2件、団体5件 個人2件、団体4件	780,150円 490,344円 293,673円 278,145円 687,060円	緑の保全や創造に係る事業に毎年多額の基金を充当しているが、それに見合うだけの基金の寄附等がない	残高 99,188,762円 (平成22年度末)
	コミュニティパーク事業	地域住民が身近な公園に愛着をもって利用し、将来にわたり育めるよう公園づくりを支援する事業で、地域住民が主体となって公園の使い方や育て方などについて話し合い、生駒市と協働でより良い公園にリニューアル（再整備）する事業	平成17年度～	平成17年度 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度	光陽台中央公園 壱分第4公園 壱分町児童公園 ひかりが丘第1児童公園 東生駒北第1公園 鹿ノ台いちょう公園	12,686,000円 10,703,000円 9,288,000円 11,991,000円 8,798,000円 9,472,450円	応募自治会が少なくなってきた ワークショップの際、行政への要望の場となる場合がある 特にリニューアル後、自治会長等の交代による公園を守り育てていく意識の低下がある	

「緑の保全・緑化推進」及び「花のまちづくりセンター」に関する事業の状況（H24.1末現在）

（資料2）

	事業名	事業概要	開始年次	実績		事業費	問題点	備考
花のまちづくりセンターに関する事業	花と緑のわがまちづくり助成制度	まちなかに草花などを植え、花と緑と自然のまちづくりを推進する自治会などに対し助成金を交付	平成20年度～	平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度	74団体（自治会33件、管理組合2件、事業所2件、グループ37件） 84団体（自治会34件、管理組合2件、事業所4件、グループ44件） 88団体（自治会35件、管理組合2件、事業所5件、グループ46件） 96団体（自治会43件、管理組合3件、事業所2件、グループ48件）	3,850,667円 4,681,410円 4,518,008円 5,991,375円（認定額）	花苗交付制度（現物支給）に替わる助成制度のため、ほとんどが100%助成	「みどりの基金」活用
	花と緑の景観まちづくりコンテスト	花と緑につつまれた美しいまちとなるよう、公園や学校等の公共的な場所や道行く人々の目にふれることができる場所で行われている「公園の緑」、「まちなかの緑」や「庭先・まちかどの緑」を対象にコンテストを開催	平成20年度～	平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度	35団体（コミュニティ部門12件、学校部門10件、事業所部門3件、住宅部門10件） 36団体（コミュニティ部門15件、学校部門8件、事業所部門4件、住宅部門9件） 22団体（コミュニティ部門10件、学校部門6件、事業所部門2件、住宅部門4件） 30団体（コミュニティ部門15件、学校部門6件、事業所部門2件、住宅部門7件）	225,592円 140,604円 199,537円 165,188円	事業所部門の参加が少ないため、積極的な広報活動が必要	「みどりの基金」活用
	花好き・自然好き市民交流サロン	「花好き・自然好き市民」のネットワークを拡げるための市民組織 花好き市民、自然好き市民の地域、世代、得意分野を越えた交流や情報交換の場 花と緑と自然のまちづくりグループが相互に交流する場 花好き、自然好き市民と花と緑と自然のまちづくりグループが出会う場 新しい花と緑と自然のまちづくりグループの立ち上げをお手伝いする場 誰にも花好き、自然好き市民になっていただく機会を提供する場 花と緑と自然のまちづくりに楽しみながら関わってもらおうことをお世話する場	平成18年度～	サロンの開催・年6回（奇数月の15日） ニュースの発行・年6回（偶数月の15日）	会員 23グループ 300人 サロンの開催 35回 ニュースの発行 36回		花好き・自然好き市民交流サロンの自立	
				平成23年度の事業費においては、平成24年1月末の実績				